豊見城第二国民学校（二豊）の 3D 復元について

中村　鼓

はじめに

豊見城市教育委員会文化課（以下、文化課）では、令和 4（2022）年度より戦前の集落および史跡を 3D で復元する事業を行っている 。戦前の風景を形に残すことで、当時の生活や沖縄戦が与えた影響等、地域に積み重ねられた歴史を後世に伝えることが目的である。また、世代間交流や平和学習への活用、現存する文化財への興味関心を呼び起こすことも期待される。

同事業では、これまでに 5 つの集落（字豊見城・瀬長・渡橋名・嘉数・真玉橋）と 4 つの史跡（豊見城グスク・橋梁真玉橋・石火矢橋・豊見城第二国民学校）を 3D で復元した 。このうち、令和 6（2024）年度に手掛けた豊見城第二国民学校（現在の座安小学校。以下、二豊）は、同事業ではじめて旧制小学校の建築を対象としたものである。同校の校舎は沖縄戦で全焼しているため、わずかに残る古写真と当時在学していた方への聞き取り調査等をもとに、校舎の姿を推定し 3D の形で復元した。本稿では、その方法および成果を報告し、同時に課題についても共有する。

1　豊見城第二国民学校（二豊）について

明治 13（1880）年、二豊の前身である豊見城小学校が開設された。前年の廃琉置県により沖縄でも日本の教育制度が適用され、県内で最初に設置された14校のうちの一つであった。その後、小学校令の公布に伴い明治 20（1887）年に豊見城尋常小学校へ改称。開校当初は字豊見城の間切番所内の一室を校舎としていたが、明治 21（1888）年～明治 22（1889）年頃に同字のメーヌヒラに新築移転した。明治 39（1906）年には高等科が併置され、豊見城尋常高等小学校へ改称した。

同じく明治 39 年、間切会[1]は豊見城尋常高等小学校を二校に分離することを決議。明治 41（1908）年に第一豊見城尋常高等小学校と第二豊見城尋常小学校に分離し、前者は饒波に、後者は座安に校舎を新築した。その後大正 6（1917）年には第二豊見城尋常小学校にも高等科が併置され、第二豊見城尋常高等小学校へ改称した。

二校は「一豊（いちとよ）」「二豊（にいとよ）」の略称で親しまれたが、昭和 16（1941）年の国民学校令によって豊見城第一国民学校と豊見城第二国民学校へそれぞれ改称した。国民学校には 6 年制の初等科と 2 年制の高等科があり、義務教育である初等科を終えると希望者は高等科へ進んだ[2]。

二豊は、村内西側の 13 字（宜保・我那覇・名嘉地・田頭・瀬長・与根・伊良波・座安・渡橋名・上田・渡嘉敷・翁長・保栄茂）を校区とし、沖縄戦直前には1,000人あまりの児童が通っていたとされる。大勢の児童が学んだ校舎には十・十空襲以降日本軍が駐屯し、米軍上陸後の昭和 20（1945）年 4 月[3]に全焼した。

終戦直後は、座安・渡橋名・伊良波に収容所が設置され、二豊のあった場所には村役場や配給所、警察署郵便局、病院などの機関が設置されて行政の中心地となった。昭和 20 年 11 月には第二豊見城小学校として座安の民家跡地と空き地で青空教室を開始。昭和 21（1946）年 4 月からは元の敷地に戻り、座安初等学校へ改称した。その後、昭和 27（1952）年に現在の校名である座安小学校となり、沖縄の日本復帰や豊見城村の市政施行を経て、豊見城市立座安小学校となった。

---

[1] 間切（現在でいう市町村）の議決機関。明治 31（1898）年に間切島規定が公布されたことで、翌明治32（1899）年に各間切・島におかれた。
[2] 国民学校令により昭和19（1944）年度から義務就学期間が 6 年から 8 年に延長予定だったが、戦時特例により適用が延期され、実施されることはなかった。
[3] 『豊見城村史』や『座安小学校 50 記念誌』の学校沿革では 4 月 20 日とされているが、他にも 3 月末とするものから 5 月末とするものまで複数の証言がある。

2　3D 復元の方法

2-1　GIS(地理情報システム)[4]データの作成

3D 復元の基盤となるのは、昭和 23(1948)年に米軍が作成した 1/4800 地形図である。戦後、沖縄の地形は米軍基地建設や区画整理、宅地開発等で大きく変化するが、この図は改変前の地形を等高線により記録している。GIS沖縄研究室[5]の渡邊康志氏は、この図をもとに DEM(数値標高モデル)を作成し、地形を3Dで復元する「沖縄島 1948 年地形復元プロジェクト」を行った。

文化課では、同氏の協力を得て 1948 年の豊見城村[6]の地形を3D で復元したものに 4 種のテクスチャ(米軍地形図・大正時代迅速測図・戦前空中写真・戦後空中写真)を重ねたデジタルマップを作成した。これを土台として、豊見城市史(村史)の屋号地図や聞き取り調査等で得た情報をもとに、当時あったと推定される建物や植物の 3D を配置し、戦前の集落および史跡を復元している。二豊の3D 復元においても同様の方法を用いた。

2-2　資料の収集・整理

まず、二豊の校舎の写真を収集した。文化課所蔵の古写真から同校の校舎が県内に同時期にあった多くの学校と同様に木造瓦葺であることが分かった。

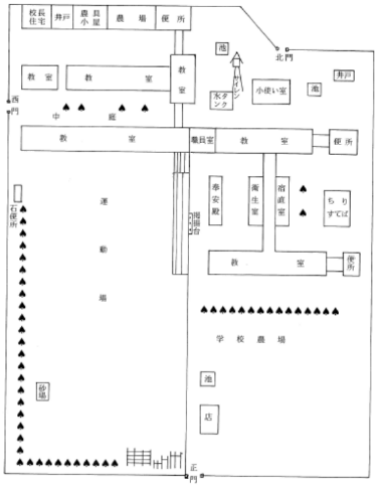
また、沖縄県公文書館や国土地理院が所蔵する米軍撮影の空中写真から、撮影コースに座安やその周辺を含むものを探した。校舎が明瞭に写っている空中写真は少なかったが、複数の写真から校舎がコの字型とエの字型に接続する様子を確認できた【図1】。

【図1】ON24591その005-2(部分拡大)
昭和 19(1944)年12月31日撮影
沖縄県公文書館所蔵

写真以外には、近代の学校建築に関する法令や県内外の例を調べた。また、豊見城市史(村史)や座安小学校の記念誌、自分史等から二豊の校舎や学校生活に関する記述を探した。それらを抜粋して項目別に分類し表に整理した。

2-3　校舎の配置・大きさの推定

収集した資料をもとに校舎の配置を推定した。しかし、二豊の場合、すでに座安小学校 80 周年記念誌に昭和 18(1943)年頃の校舎配置図が掲載されていた【図 2】。この図は、二豊の卒業生で座安小学校の 80 周年時に校長を務めていた高良健二氏によって作られたものである。校舎の形状は先述の空中写真とおおむね一致し、「教室」「奉安殿」「井戸」といった各施設・設備の位置が示されている。今回の復元において重要な資料となった。



【図 2】記念誌編集委員会「昭和 18 年頃の校地校舎の概況」『座安小学校創立 80 周年記念誌』座安小学校創立 80 周年記念事業実行委員会、1990 年、26 頁

続いて、校舎の大きさを推定した。学校建築は、明治 28(1895)年に発刊された『学校建築図説明及設計大要[7]』と、その内容を改訂増補した『学

---

[4] 地理的な位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。国土地理院 web サイト「GIS とは…」https://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html(最終閲覧日:2026年2月6日)より引用。

[5] 渡邊康志氏が GIS に関する情報を発信する個人 Web サイトの名称。同氏は地域史や学校教材、沖縄関係書籍の資料に GIS を活用する協力をしており、これまでに沖縄県文化振興会・読谷村史・西原町史等での実績がある。

[6] 当時。

[7] 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築図説明及設計大要』文部大臣官房会計課、1895 年、国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/1078704(最終閲覧日:2026年2月5日)

校建築設計要項[8]』が明治 37(1904)年に発刊され、明治後半以降類型化が進んだとされている[9]。二豊の校舎は明治 41(1908)年に落成していることから、これらに基づき設計された可能性が高い。このような学校建築の規格に加えて、空中写真の縮尺や古写真に写り込む人物と校舎の比率を委託事業者が割り出し、大きさを推定した。また、聞き取り調査で得られた証言も参考にした。

2-4 聞き取り調査

当時在学していた方へ詳細な部分について聞き取り調査を行った。まず、二豊の通学区域より話者を選定し、自治会長と話者に事業内容を説明して承諾を得た。聞き取りは主に話者の自宅で行った。二豊にあった施設・設備について、ハード面(位置・向き・大きさ・形状・材質・色・間取り・植物の種類等)を中心に、併せてソフト面(用途・関連するエピソード等)を訊いた。その際、大判印刷した校舎配置図にメモを書き込んだ。外観を言語化しづらい場合は、同時代の県内外の例を写真で示し、話者の記憶との共通点あるいは相違点を訊いた。また、話者の許可を得て音声を録音し、後に文書化した。

聞き取りには、先述の高良健二氏にご協力いただいた。昭和 5(1930)年生まれの高良氏は、校地に隣接する字の渡橋名で生まれ育ち、高等科 1 年を卒業して旧制中学校に進学するまでの 7 年間二豊に通った。したがって、今回復元した校舎は高良氏が記憶する昭和 12(1937)年 4 月から昭和 19 年 3 月までの姿である。

また、高良氏は戦後には教員として座安小学校の復興を担い、退職直前に再び同校に戻って第 22 代校長を務めている。このように、高良氏は同校の変遷を間近で見てきた人物であり、聞き取りでは充実した内容を得ることができた。

一方で、今回は 1 名にしか聞き取り調査を実施することができず[10]、女子児童の視点も欠けている[11]。今後の復元ではより多くの話者を対象に聞き取りを行い、証言の客観性を量的にも保証していきたい。

二豊の 3D 復元においては、先述の 2-2 から 2-4 の調査を並行して進めることで、それぞれの情報を紐づけていった。

3 成果

調査で得た内容を【図 3】の校舎配置図や表に集約し、それをもとに委託事業者が 3D を作成した【図 4】。完成品は、豊見城市歴史民俗資料展示室内のモニターにて公開中のコンテンツ「とみぐすくタイムマシン」の一部として閲覧できる。【図 5】～【図 8】は、そのスクリーンショットと二豊の古写真を比較したものである。

また、web サイトで公開中の沖縄戦平和学習用 VR「時空記者[12]」で地域を「渡橋名」と選択することでも閲覧可能である。「時空記者」では、登場人物のセリフにも調査で得た証言を利用している。令和 7(2025)年度には、市内の小中学校(長嶺小学校・伊良波小学校・豊崎中学校)で平和学習教材として活用された。

4 今後の展望

令和 7 年度現在、戦前の豊見城村にあったもう一つの旧制小学校である豊見城第一国民学校(現在の長嶺小学校。以下、一豊)の 3D 復元に向けて調査を進めている。

「時空記者」QR コード

---

[8] 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築設計要項』文部大臣官房会計課、1904年、菅野誠、佐藤譲『日本の学校建築　資料編』文教ニュース社、1983年

[9] 菅野誠、佐藤譲『日本の学校建築　発祥から現代まで』文教ニュース社、1983年

[10] 令和6年度は、二豊と同時に渡橋名に関する聞き取り調査を実施した。そこでは高良氏以外にも 3 名の話者にご協力いただいたが、戦前は未就学児であるなどの理由から二豊の話は伺っていない。

[11] 当時は男女別学級や女子児童にのみ課された授業(裁縫・家事)があったことから、女子児童のみが使用した施設・設備が存在すると考えられる。話者が男性の場合、そこを記憶していない可能性がある。

[12] URL:https://www.okitechub.com/tgda-okinawa-war-vr/(右上の QR コードからもアクセスできます)

【図3】昭和12～19 年頃における豊見城第二国民学校の校舎配置図（推定）

二豊の場合、すでに高良氏が作成した校舎配置図があり、非常に参考になった。しかし、一豊の場合はそれがないため、空中写真等をもとに一から校舎配置図を作る必要があった。

聞き取り調査では、二豊の際に 1 名しか実施できなかった反省から、一豊の場合は通学区域内から広く話者を探し、計 7 名の方に聞き取りを行うことができた。話者の数が増えたことにより、共通して語られる内容にはより説得力が増した。しかし、学年や個人によって記憶の異なる部分も多く、それをどのように 3D 復元に反映するかという新たな課題も浮上した。

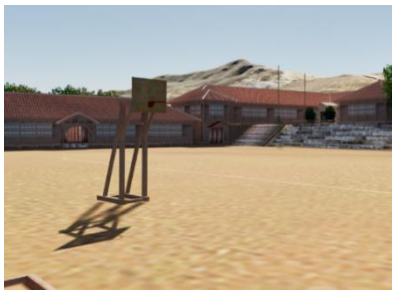
【図4】豊見城第二国民学校の3D 復元（スクリーンショット）

また、一豊を調査していく中で、二豊との共通点および相違点が明らかになってきた。例えば、「四大節[13]や学芸会等の行事の際は、教室の仕切りを取り外して一つにし、講堂として利用した」という証言は二校で共通して聞かれた。これは、『学校建築図説明及設計大要』の第 2 章の概説に挙げられた「別に講堂を作らず教室の仕切を取外して講堂の用に充つべし[14]」という小学校の建築に関する要件に基づくと考えられる。なお、二校ともその教室を「普段は高等科の教室として使用される東側の3、4教室」とする証言が多い点も注目に値する。

対して、奉安殿の立地には違いがみられた。二豊の奉安殿は校舎の中央に位置し職員室も近く、児童がよく通る場所だったと考えられる。一方、一豊の奉安殿は校舎の外れの丘陵を階段で昇った先にあった。聞き取りでは、2 名が「階段の上に行ったことはない」と話しており、詳細な外観を記憶している者もほとんどいない。ある自分史では、饒波の若者たちが夜の学校に忍び込み肝試しをする中で、最も怖い場所が奉安殿だったと伝聞調で記されている[15]。そして、奉安殿はその立地から畏敬の場所であると同時に近寄り難い場所だったとしている。

このように、同時代・同村内にあった二校の間に共通点だけでなくそれぞれの特徴が見られることは興味深い。今後は、二校に関する証言や記述を一覧できる表を作成し、容易に比較できるようにしていきたい。また、施設・設備に関するものだけでなく、学校生活等のエピソードについてもまとめいずれは3D に表示する形で市民の皆様の地域学習に寄与したい。

【図5】戦前の二豊の校舎、撮影年不明、豊見城市教育委員会所蔵。運動会で青年学校の学生が軍事教練の成果を披露する場面か



【図6】図5と同じ位置の3D 復元（スクリーンショット）。バスケットリングの位置が証言と異なるため、今後修正予定

【図7】昭和初期の二豊の校舎、撮影年不明、豊見城市教育委員会所蔵。手前にむくり屋根のポーチ、階段の先に奉安殿と国旗掲揚台が見える

【図8】図7と同じ位置の3D 復元（スクリーンショット）

おわりに

今回、二豊を 3D 復元するにあたって、まず直面したのが古写真等の一次資料の少なさである。この背景にはやはり沖縄戦があり、歴史が断絶されていることを感じた。現在、人数は限られるものの、当時在学していた方への聞き取りが可能である。37年間多くの児童が過ごし、記憶を共有する二豊の校舎を3D で復元し、視覚的に記録することは意義深いと考える。

また、復元に利用した空中写真は、本来米軍が攻撃目標を把握するために撮影したものである。そして、終戦から 80 年が経った現在、その空中写真は当時を知るための限られた資料となり、ついには攻撃により失われた建物の3D 復元に利用された。高精度な空中写真は校舎の配置や接続を明らかにしたが、同時にこれだけはっきりと校舎の姿が捉えられていたことに恐怖を感じる。

---

[13] 旧制の祝日である四方拝（1月1日）・紀元節（2月1日）・天長節（4月29日）・明治節（11月3日）の総称。この日、学校では式典が開かれ、「君が代」斉唱や御真影への最敬礼、校長による教育勅語の読み上げ等が行われた。

[14] 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築図説明及設計大要』文部大臣官房会計課、1895 年、国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/1078704 コマ番号8（最終閲覧日：2026年2月5日）

[15] 平田永哲『好きなこと、やりたいことを慌てず、焦らず、諦めず歩んだ人生を回顧して人生大転換～高校英語教師から大学特別支援 教育研究と普及啓発の道へ～』2016年、72～73頁。筆者は高安出身で、1940 年に一豊に入学している。

さいごに、本事業を支えているのは、なにより当時を知る方々の証言である。たとえ古写真や空中写真に建物が写っていたとしても、それが人々にどのように使われ捉えられていたかという意味的な部分は知り得ない。限られた時間の中で少しでも多くの個人の記憶を記録するため、今後の調査でも聞き取りを重点的に行っていきたい。そして、3D 復元という形で成果を公開することで、市民の皆様に還元していく所存である。至らない点も多くあるかと思うが、ご意見等あればお気軽にご連絡いただきたい。

謝辞

今回の 3D 復元にあたって高良健二氏には複数回に渡る聞き取りにご協力いただいた。戦前の豊見城第二国民学校と渡橋名について、建物だけでなく当時の生活や戦後復興に関する多くの貴重な証言をいただいた。また、沖縄戦平和学習用 VR「時空記者」の作成にあたっては、監修委員の北上田源氏（琉球大学教育学部准教授）・喜納大作氏（与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館学芸員）・狩俣日姫氏（株式会社さびら）に多角的なご意見をいただいた。なお、この調査は文化課の工藤・田辺と共同で行い、GIS および 3D データの作成は委託事業者の株式会社パスコ沖縄支店が行った。その他にも関わってくださったすべての方にこの場を借りて感謝申し上げる。

【参考文献】

豊見城市史（村史）

・豊見城村史編纂委員会『豊見城村史復刻版』豊見城村役所、1964 年

・豊見城村教育委員会村史編纂室『豊見城村史　第 9 巻　文献資料編　別冊　統計にみる豊見城』豊見城村・役所、1998 年

・豊見城村史戦争編専門部会『豊見城村史　第 6 巻戦争編』豊見城村役所、2001 年

・豊見城市　市史編集委員会 新聞集成編専門部会『豊見城市史　第 3 巻　新聞集成編（明治 31 年～昭和 20 年 6 月）』豊見城市役所、2010 年

座安小学校記念誌

・『座安小学校五十周年記念誌』座安小学校、1959 年

・『創立六十周年記念誌』座安小学校、1968 年

・記念誌編集委員会『座安小学校創立 80 周年記念誌』座安小学校創立 80 周年記念事業実行委員会、1990 年

・記念誌編集委員会『創立 90 周年記念誌』座安小学校創立 90 周年記念事業期成会、1999年

GIS 沖縄研究室「沖縄島 1948 年地形復元プロジェクト」

・GIS 沖縄研究室 Web サイト　http://gis-okinawa.jp/（最終閲覧日：2026年2月6日）

・渡邊康志、辻浩平、上原冨二男「1948 年米軍作成 1/4800 地形図を用いた DEM 作成と国土地理院5mメッシュ標高との差分による地形改変判読」『沖縄地理』第 14 号、沖縄地理学会、2014 年、1～18 頁

・渡邊康志、上原冨二男「沖縄島中南部の1948年地形とその改変」『沖縄地理』第 19 号、沖縄地理学会、2019 年、1～16 頁

戦前の学校建築に関する法令・刊行物

・琉球政府『沖縄縣史　第 4 巻　各論編3　教育』琉球政府、1966 年

・文部省『学制百年史　資料編』帝国地方行政学会、1981 年

・文部省『学制百二十年史』ぎょうせい、1992 年